

日時

2017年2月11日(土)
13:00~17:30

会場

ウィルあいち 3F 会議室4
愛知県名古屋市東区上豎杉町1
(地下鉄「市役所」駅 2番出口より東へ徒歩約10分)

定員

20人(先着順、要事前申込み)

参加費

無料



Nたま
14期生

次世代のNGOを育てる、コミュニティ・カレッジ
(通称:Nたま)2016

NGOのたまご

研修生の修了式

ぜひお越しください!



2016年7月30日に入学式を迎え、早いもので約6ヶ月が経ちました。研修を通してNGOの第一線で活躍している方々に出会い、考えや想いに触れ、NGOとして活動することはどういうことなのかを学んできたNたま14期生たち。仕事や学業の間に時間をつくり、インターンシップやグループでの自主企画にも取り組みました。

NGOや国際協力の分野に関わりたい方、NGO/NPOの人財育成を担当されている自治体の関係者、など、多くの方のご参加をお待ちしております。

修了式次第

- 13:00~ あいさつ/研修の様子のご紹介
- 13:30~ 研修生のスピーチ
※一人発表5分、質疑応答5分
- 16:00~ 自主企画の発表(3グループ)
- 17:00~ インターン受入団体からのコメント
- 17:30 終了

※修了式には、研修中にお世話になった講師やインターン受入NGOのスタッフにも参加して頂く予定です。

本コミュニティ・カレッジは、本年度で14回目の開催です。NGOのたまご、通称「Nたま」と呼ばれ、現在まで191人が受講し、のべ108名の方がNGO・NPOスタッフ(有給職員・無給ボランティア含む)として羽ばたいています。本年度は、Nたま14期生です。

申込み&問合せ先

(特活)名古屋NGOセンター

愛知県名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル7F
TEL&FAX:052-228-8109 (受付時間:火~土曜日 13時~17時)
Mail:info@nangoc.org

※修了式に参加を希望される方は前日17:00までに名古屋NGOセンターまで電話・メール・FAXにてお申込み下さい。



次世代のNGOを育てる、コミュニティ・カレッジ
(通称:Nたま)2016 修了式

研修生のご紹介

※研修生のコメントは、毎回の研修の終わりに書いた「振り返りシート」から抜粋しています。



すずき ゆり
鈴木 優里さん

見えない、分からないという状況が人々に大きな不安を与えていて、自分の身を守ることすらままならないということに衝撃を受けました。まずは知らないといけないなと思いました。



ひがし けんご
東 憲吾さん

「人」を支援する際、また「人」と何かを起す際、その人の背景や熱意、活動に対するエネルギーのようなものを理解しておく必要がある。活動に「魂」を入れることが大切だと感じた。



もり ひろあき
森 浩彰さん

“私が”という視点が重要。できると思うか思わないかで、取り組みの結果が大きく異なってくる。物資の援助だけでなく、精神的に寄り添うことが重要なのだと強く感じました。



こばやし まき
小林 真紀さん

地域や社会で何が足りないのかを知ることが基本。単に自分がやりたいこと、好きなことをするのはない。足りないところを補う。未来を見据えて取り組む、だからこそ参加する意義があるのだと分かった。



ふなはし ゆき
舟橋 由紀さん

政府を味方につけてしまえばより大きなうねりが作れるのではないかと思います。GO(政府)もNGO(非政府)もおそらく方向性は近い気がしました。GOが拾えないところをNGOが拾うみたいなイメージです。



かとう みく
加藤 美紅さん

インターン先:一般財団法人日本国際飢餓対策機構
取り組みを始めるポイントは人によって違っても、すべての取り組みがつながっていけば、社会のつながりやよい環境が広がっていくのだろうなと感じました。自分はどこから取り組んでいこうか考えていきたいです。



つつい ひろはる
筒井 広治さん

グローバル経済の中で、先進国の消費行動が、経済力の弱い国々に大きな影響を与えていることを実感した。それをまわりの人々に伝え、考え、行動できるようにしていきたい。



たけうち ともこ
竹内 智子さん

自分の見たいようにしか世の中を見ていないことに気付かされました。自分の中の狭い、偏った考え、始めからできないと思ったら何もできないということを感じ知らされました。



もりわき やすひさ
森脇 康久さん

インターン先:一般財団法人日本国際飢餓対策機構
これまでは「自分のために」いろいろなことを自分の引き出しにため込んできたが、これからは「ため込んできたものを吐き出す」ことで、まわりの人たちと関わり、社会につながっていききたいと思う。



ほそい かずよ
細井 和世さん

インターン先:認定NPO法人
ホープ・インターナショナル開発機構
それぞれが自分の気になることに取り組んだ結果、様々な取り組みが生まれ、人とのつながりが生まれ、さらに活動が発展していったのではないかと思います。“信じる”ことが違いを生むのだと知りました。



いなば りょうた
稲場 良太さん

インターン先:フェアビーンズなごや地球ひろば店
一つの飢餓の要因の中で、輸入品依存の国があることが、思った以上に影響があった。だからといって、援助をしすぎると市場を歪めてしまうというお話を聞いて、複雑な気持ちになった。



とみだ けいこ
富田 桂子さん

「当事者を真ん中に置く」と考えたときに、企画の見え方が大きく変わりました。他の方がすでにされていることやその成果を踏まえて、この企画が必要なんだという根拠を作りたいと思いました。



やだ まさし
矢田 昌史さん

多文化共生の舞台裏で、移住労働者が他国の思いのままにされている事実にも憤りと同情を感じた。しかし日本にもそういった面はあると思う。この分野は非常に興味があるので自分でもいろいろ調べていきたいと思う。